



気象情報による判断だけでは不十分

前回までに、校区の水害リスクを確認する方法について、お話をしました。今回は具体的な学校の対応方法について考えていきます。

大雨による洪水の危険が迫っていることを知るための情報として、気象庁が発表する、注意報、警報が広く認知されています。「暴風警報」が発表された場合には授業打ち切り、休校の処置をとっていると思います。それでは「特別警報」への対応は、どのようになっているのでしょうか。特別警報は2013年から運用が開始されたもので、「命を守る行動」が求められるような状況が出現している場合に発表されます。大雨特別警報が発表されている場合に、暴風警報が同時に発表されているとは限りません。今一度、特別警報が発表された場合の学校対応について確認するとともに、保護者の皆さんへの周知をお願いしたいと思います。なお、特別警報の種類に「大雨特別警報」はあるのですが、河川の氾濫に

ついては、単純に降雨だけで判断できないことから「洪水特別警報」は発表されません。したがって、学校の立地によっては、こうした気象に関する情報とは別に、独自の対応を考えなくてはなりません。

指定河川洪水予報とは

気象と同じような洪水の予報は、ないのでしょうか。実は洪水予報も存在します。指定河川洪水予報と呼ばれるもので、地域ではなく、対象河川ごとに発表されます。危険レベルに合わせて「氾濫注意情報」、「氾濫警戒情報」、「氾濫危険情報」、「氾濫発生情報」の4種類があります。河川の水位と降雨の状況や予測などを加味して発表されます。

河川の洪水に対する水位は、図の右側のように5つのレベルに分けられています。

レベル1が水防団待機水位であり、地域として洪水に注意を払い始めるべき水位といえます。レベル2の氾濫注意水位は、このまま大雨が続くと危険な状態になり得ると考えら

れる水位です。場合によっては、この水位で避難準備・高齢者等避難開始が発表されます。レベル3は避難判断水位であり、かなり危険が迫っている状態です。レベル4は氾濫危険水位で、避難勧告もしくは避難指示が発表され、場所によっては緊急の避難を要します。レベル5は氾濫発生状態です。個々で命を守らなくてはなりません。

これらの水位が何mで設定されているかは、ホームページ「川の防災情報」で確認することができます。また、市町村の防災対策にかかわる部署に問い合わせてもよいと思います。ただし、中小河川や小さな用水から水があふれ出しているような事態には対応できません。そうした場所は、通学路点検などの際に聞き取るなどして、危険箇所を把握しておく必要があります。

水位上昇に合わせた授業打ち切りのタイミング

学校として、授業打ち切りをどのようなタイミングで行うのか、事前に決めておく必要があります。図の左側に、水位上昇と求められる対応を模式図として示しました。水位との対応はおよその目安ですので、参考までにご覧ください。

対応の流れを考えてみましょう。まず、授業打ち切りと帰り仕度を開始します。その後、メール等で保護者に連絡し、学校へのお迎えを促します。ある程度時間が経過し、それでも水位が上がってくるようでしたら、子どもたちを安全な場所へ避難させなくてはなりません。避難については、高い建物の上に避難する「垂直避難」と、浸水想定域の外まで移動する「水平避難」の2種類が考えられます。これには一長一短があつて、例えば校舎の最上階に垂直避難させるのが、最も確実で混乱の少ない方法かもしれませんが、本当に河川氾濫が起きれば、校舎の中で児童と教職員が孤立してしまい、ボートやヘリコプター等での救助を求めなくてはならなくなります。学校の対応としては、反省すべき結果といえるでしょう。一方で、校外の高台へ向かう水平

避難を行う場合は、ルート^①の安全確認や受け入れ先との調整が必要となります。避難完了の時間は、氾濫が想定される時間よりも少し早めでなくてはなりません。

以上により、「帰りの支度」+「保護者お迎え待ち時間」+「避難に要する時間」+「氾濫までの余裕時間」の合計時間と水位上昇の時間を考えることで、授業打ち切りのタイミングを決めることができます。これにより「本校では、〇〇川の水位がレベル2を超えたら、授業は午前中で打ち切り、昼食後、下校させます」という目安を、あらかじめ保護者に周知しておくこともできるようになるわけです。

まとめ

今回の話より、皆さんに行っていただきたいことをまとめると、以下のようになります。

- 1) 気象情報への対応を再確認
- 2) 近隣河川の設定水位を確認
- 3) 授業打ち切りのタイミングを設定

しかしながら、3)については河川の状況や学校の立地条件により異なりますから、かなり難しいです。過去の水害における水位上昇については河川事務所に問い合わせれば、アドバイスをいただけるとは思いますが、とりあえずレベル2の氾濫注意水位を目安にするのもよいと思います。次回は、避難訓練や保護者への周知などの紹介をしたいと思います。

参照ホームページ

気象庁のホームページから、「知識・解説＞指定河川洪水予報」を見ると、より詳細な洪水予報に関する情報を得ることができます。

小池則満先生のプロフィール

愛知県豊川市出身。専門は防災計画、土木計画。名古屋工業大学大学院修士・博士(工学)。名古屋工業大学助手、ケンタッキー大学客員研究員などを経て現職。東海ネーデルラント高潮洪水地域協議会ファシリテーター、名古屋市防災まちづくり計画検討会委員等を歴任。

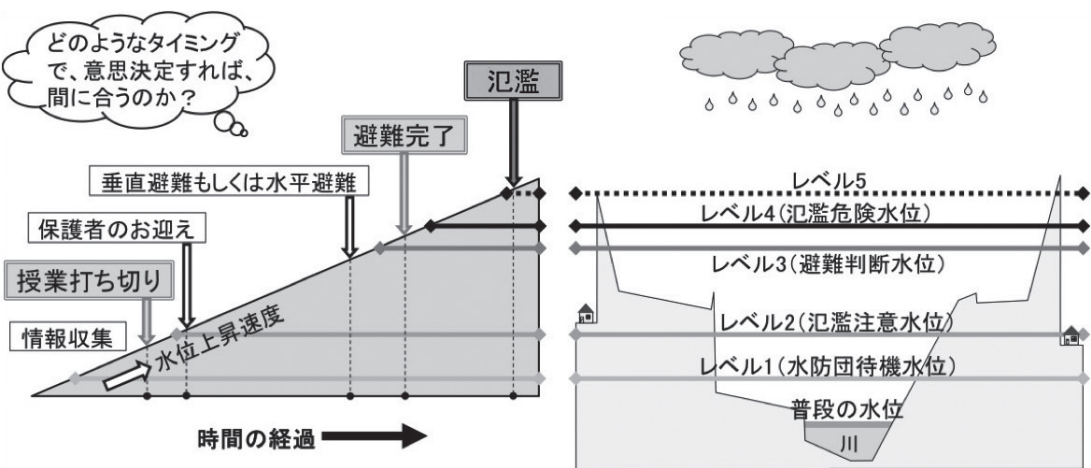


図 河川水位と学校の対応についての模式図